

令和6年度 学 校 経 営 計 画 に 対 す る 最 終 評 価 報 告 書

石川県立大聖寺実業高等学校

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1	基本的生活習慣の確立を基盤とし、生徒が学習に関する自己調整を行うことにより、自立した学習習慣の確立を図る。	① 本校の授業心得を周知し、授業規律の徹底を図るため、校内外の挨拶を積極的に励行する。また朝礼や授業開始時にロッカーの上や机の周りを点検し、乱れがあれば片付けさせる。	毎日、自ら積極的に挨拶することを心がけ、実行している生徒および教員の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	【生徒】 【教員】 評価 A A 後期 98% 100% 前期 97% 100%	集計結果では、生徒の98%、教員の100%が、自ら挨拶することに取り組めたと答えている。その内の生徒58%、教員85%が「している」と回答している。今後も、産業人にとって必要な資質の一つとして、学校における教育活動全体を通して挨拶の励行を指導していきたい。
			私たちの教室は整理整頓されており、学習に相応しい環境であると感じる生徒および教員の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	【生徒】 【教員】 評価 C B 後期 80% 88% 前期 88% 85%	生徒の集計結果では、80%が学習に相応しい環境であると答えている。しかし、その内、「良好である」と回答しているのは27%に過ぎない。快適な学習環境とするため、教室の私物の整理整頓だけでなく、体育用具や部活動用具の管理を徹底して行うよう指導していきたい。
		② スキルアップタイムを活用した学習を通して、将来の産業人として必要な基礎学力の定着を図る。	文章を読む力、内容を理解する力、考えを表現する力が向上したと感じる生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	評価 A 後期 93% 前期 95%	肯定的な意見の割合は93%でA評価であったが、「実感している」と答えた生徒は25%に過ぎず、十分な成果が得られたと言い難い。生徒が主体的に学習し、基礎学力が向上したと実感できるように、指導方法の改善に取り組んでいきたい。
		③ 集会やWeb等による定期的な指導を通して、規範意識の高揚と校則の遵守を身に付けさせる。	昨年度と比べ、指導件数が A 20%以上減少 B 10%以上減少 C 10%未満減少 D 増加した	評価 A 22.0%の減少 今年度 39件 昨年度 50件	昨年同様、遅刻や携帯電話使用について、繰り返し指導を受ける生徒は一部いるが、指導内容は軽微なものがほとんどである。大きな問題もなく、生徒は落ち着いた生活を送っている。今後も家庭と連携するとともに、校内での情報共有を密にし、指導を受ける生徒のさらなる減少に努めていきたい。
関係者評価委員会の評価		・学校に来る度、「生徒は、きちんとした挨拶ができている」と感じる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・産業人にとって必要な資質の一つとして、今後も継続的に挨拶の励行を指導していく。			

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2	1人1台端末を効果的に活用した教員の指導方法の工夫・改善により、生徒の個別最適な学びと主体的・対話的で深い学びの実践をとおして、確かな学力を身に付けた地域に期待される人材を育成する。	① 学習意欲を喚起する授業の工夫と一人ひとりが主体的に取り組む学習指導を推進する。	1人1台端末の活用や探究活動を取り入れて、個に応じた学習が進められるよう授業の工夫を行っている教員の割合が	評価 C	肯定的な意見の割合は教員 76%でC評価であったが、ICT機器の活用などで授業改善に取り組む教員の割合は増加傾向にある。互見授業や研修などを利用して、各教科でICT機器の効果的な利活用について、使いやすいアプリケーションについて研究するなど、さらなる工夫改善に努めていきたい。
			A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	後期 76% 前期 69%	
		② 質問に対して、根拠や理由を示して答えさせることで深い学びにつなげる。	授業改善に生かす目的を持って、互見授業に参加した回数が	評価 C	昨年度から、前・後期に授業公開期間を設定して、5回以上の参観目標を立てて行っているが、達成することは出来なかった。次年度からは、参観回数を増やし、その後の意見交換の機会を設けることで、教員の授業改善に繋げていきたい。
			A 6回以上 B 5回以上 C 4回以上 D 4回未満	1人平均が4.3回	
		③ 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	学習内容について、考える力がついたと感じる生徒および教員の割合が	【生徒】 【教員】 評価 A B	肯定的に回答した生徒の割合は高い。教員の授業改善とともに、教材として新聞を活用した授業などの取り組みにより、文章を読んで考える力を養う機会が増え、生徒自身が実感できたのではないかと思われる。外部模試での基礎学力の成績が向上していることから、一定程度の成果がみられた。さらに生徒が考える力を育成するために、授業改善に取り組んでいきたい。
			A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	後期 100% 82% 前期 98% 84%	
			3年次にジュニアマイスター顕彰制度30点以上、全商1級合格5種目以上の生徒が合わせて	評価 D 7人	今年度、ジュニアマイスター顕彰制度30点以上は6名、全商1級合格5種目以上は1名で合計7名となりD評価であった。資格を取得ことが生徒の自信となると思われる。そのため、次年度は、生徒の実情をとらえながら定期的な補習や個に応じた学習課題の設定など、資格取得の指導に一層力を入れていきたい。
関係者評価委員会の評価		・生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組んでほしい。 ・大聖寺実業高校の商品開発は素晴らしいので、今後も実施を継続させてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・生徒の資格取得が生徒の自信となることから、資格取得の指導に一層力を入れていきたい。 ・商品開発を始め、加賀市の地産地消や宣伝を継続していきたい。			

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準		集計結果%		分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)	
3	学校の教育活動全体をとおして、生徒の将来の産業人として求められる人間力を磨き、他を思いやる人間性を涵養する。	①	生徒一人ひとりの生徒会活動への参加意識を高め、行事を通して人間的成長を図る。	生徒会行事（聖実祭、ホーム対抗行事）で自ら積極的に取り組んだ生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満		評価 B 86%		昨年度の評価94%から減少しているが、「意欲的にできた」が31%から56%に増加して、生徒の積極性向上がみられた。今後も行事を通して人間的成長を図るために、生徒自らが企画した内容を取り入れるなど、生徒が意欲を持って主体的に取り組める行事を検討していきたい。	
		②	ボランティア活動に積極的に参加することで、奉仕の精神や郷土愛を育む。	年間ボランティア活動に、2回以上参加した生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満		評価 D 22%		毎年、清掃活動やロボレーブ大会、雪かきなど学年単位や部活動単位での様々なボランティア活動を行っているが、生徒は学校行事や部活動の一部と考えている。今年度は、活動にあたり、ボランティアについて意識させ、ボランティアへの理解を深めるとともに奉仕の精神や郷土愛も育みたい。	
		③	いじめや不登校の早期発見・早期対応に向け、教員間での情報共有と連携を図る。	教職員の情報交換により、問題の未然防止や早期発見に努めている教員の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満		評価 A 後期 97% 前期 94%		年3回のいじめアンケートに加え、年間5回の相談室連絡会を開催して、教員相互の情報交換により、「いじめと感じた事案」については、迅速かつ早期に対応ができた。今年度も、学校生活全体をとおして、些細な生徒の変化に目を配り、さらに教員相互の情報交換を密にして、安全安心な学校運営に取り組んでいく。	
関係者評価委員会の評価		・市内のボランティアに今後も積極的に参加してほしい。							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・市内でのボランティアを生徒に紹介し、個人や部活動での参加を促していきたい。							
4	Society5.0時代に役立つAI・IoT教育やデジタルコンテンツの作成など、本校における特徴的な教育活動の情報を積極的に発信する。	①	学校だより、学校Webページ、学校懇談会・見学会、報道等を活用し、保護者や地域等への情報提供を充実させる。	生徒・保護者・地域等に本校の魅力について理解を求める活動を行った回数が A 7回以上 B 5回以上 C 3回以上 D 3回未満		評価 C 4回		毎年、体験入学の他、中学校の保護者や先生への説明会などに取り組んでいる。観光甲子園やロボレーブ大会への参加についても、本校の取り組みが広く知られる結果となった。今年度は、本校での取り組みをさらに校外でアピールするため、新聞等に報道提供を積極的に行っていく。	
関係者評価委員会の評価		・観光甲子園やロボレーブ大会での参加を通して、学校の取り組みが広く知られたことは良いことである。							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・課題研究において、観光やロボットについての研究をさらに深化させ、今後も情報発信していきたい。							

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準		集計結果%		分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)	
5	教職員のウェルビーイングを高めるために、校務の効率化・平準化を実現し、より効果的な教育活動を行う。	①	時間管理の意識を高め、日頃から生徒とのコミュニケーションをとる時間を確保することに努める。	採点業務省力化ソフト等の活用で業務の効率化を意識し、生徒と向き合う時間を確保するよう努めている教員の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満		評価 D 後期 73% 前期 72%	採点業務省力化ソフトの使用率は73%であった。「生徒と向き合う時間を十分確保している」と肯定的に答えた教員の割合が55%と昨年度より増加した。今年度も、採点業務省力化ソフトを積極的に活用していく。また、生成A I 等の活用も促し、学校全体で業務の効率化を図り、全教員が生徒に向き合えるように時間確保を行っていく。		
		②	若手教員とのO J Tを通し、探す無駄、待たされる無駄、やり過ぎる無駄を減らすことに努めるとともに業務の可視化を進める。	次年度へ業務を引き継ぐことを前提に置き、メモやマニュアル等を残しながら仕事をしている教員の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満		評価 A 後期 91% 前期 91%	肯定的に答えた教員の割合が、前・後期ともに91%であった。見通しをもって業務に取り組むことができ、生徒と向き合う時間の確保にもつながると思われる。今後、100%となるように、継続して取り組んでいきたい。		
		④	教員1人ひとりの時間外勤務について実態を把握するとともに、時間外勤務を減少させるべく校務の効率化を行うと共に、年休の取りやすい職場環境を構築する。	時間外勤務月45時間以上の教員の割合が年間で A 29%未満 B 35%未満 C 40%未満 D 40%以上		評価 A 23.3%	時間外勤務45時間以上の教員の割合が23.3%と年々減少傾向にある。しかし、時間外勤務60時間以上の教員の割合が12.8%とある程度いる。校務の効率化・平準化を進め、時間外勤務の多い職員数の減少に取り組んでいきたい。		
関係者評価委員会の評価		・ I T 技術を積極的に取り入れ、教員の負担軽減をさらに進めていくべきである。							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・ 採点業務支援ソフトや生成A I などを活用し、業務の効率化、ワーク・ライフ・バランスの改善に努めていきたい。							